

平成26年度授業改善プラン

1 全体計画

中野区立第八中学校

学校の教育目標

- 自他の生命を尊重し、健康な生活を送ろうとする人 <からだをつくる>
- 人権尊重の精神を理解し、社会の発展に寄与しようとする人 <心のみがく>
- 幅広い教養を身につけ、生涯学び続けようとする人 <わざを練る>



平成26年度の重点目標

：学習活動・指導法・生徒理解での「つながり」を重視した教育活動の展開

- 基礎・基本の確実な習得・学習習慣の定着・学習意欲の向上・生きる力の育成・道徳教育の充実
- 基本的な生活習慣の確立・個を生かした指導・学年学級指導・学力向上・指導技術の向上
- 適切な生徒理解・地域保護者との連携



平成26年度の指導の重点

<各教科>

・身に付けた知識を活用するとともに言語活動を通して、表現する力の育成を図る。

<道徳>

・自然体験や社会体験を通して生徒の内面に根ざした道徳的実践力の育成を図る。

<特別活動>

・学級生活で学校生活への適応を図り、健全な生活態度を育成する。

<総合的な学習の時間>

・大単元を「自然を探る」「文化を探る」「社会を探る」とし自ら課題を設定し探究させる。

<生活指導>

・授業規律の確立を図ることで、規範意識や倫理観の高い生活態度を身に付けさせる。

<進路指導>

・3年間を見通した進路指導計画に基づき、計画的、組織的に望ましい勤労観、職業観、主体的に進路選択ができる力を育成する。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域との連携の工夫
少人数指導の特性を生かし、言語表現活動を重視した学習・ICT機器を活用した授業に取り組み、関心や意欲を高める。	始業前の朝読書と、年間4回の定期考査の実施により、基本的な生活習慣の確立と、家庭学習の習慣の定着を図る。	学習單元ごとに形成的な評価を行うとともに観点別評価を細分化して、生徒に対する学習成果通知の具体性を高める。	授業規律をテーマとした実践を行い、共通理解を図るとともに、特別支援教育の手立てをカウンセラーと協力してすすめる	長期休業中の地域高校生による学習支援や、定期考査前の学習教室を実施により、めあてを持った学習習慣の確立を図る。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを繰り返すことで家庭学習を習慣化させ、基礎的・基本的学力を定着させる。 ・文字や語句に関心を持ち、きちんとした文字を書く力を身に付けさせる。 ・色々なジャンルの一定の長さの文章を読解する力を身に付けさせる。 ・自分の意見や感想を文章で表現し、発表する能力を育成する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	「漢字を読む」は目標値、区の平均を上回るが、「漢字を書く」は目標値、区の平均を下回っている。「書く能力」は目標値、区の平均を上回っている。「読む能力」は区の平均は下回るが目標値は上回っている。「話す聞く能力」は区の平均を下回っている。	漢字の書き取りは毎回範囲を決めてテストをしているが伸びていないことからテスト後の間違い直しや練習に力を入れる必要がある。自分の意見を発表したり、他の人の意見を聞いて理解する力が弱い。文学作品などを読み取る力はまあまあである。	漢字の練習をこまめにやり、テストで確認をする。その後の間違い直しを徹底させる。書けなかった漢字ノートを作る。読み取る力はある。読書などさらに続ける。感想も書いたり発表したりすることを続ける。「話す聞く能力」が弱いので、グループでの話し合いや教えあいなどの活動を多く入れ、コミュニケーションの場を入れていく。
2年	「漢字を読む・書く」は目標値も区の平均も大きく下回っている。「書く・読む能力」は区の平均を下回っている。「話す聞く能力」は目標値は上回っているが、区の平均は少し下回っている。	漢字の小テストは範囲を小さくして行っている。テスト直前にやってテストをやるだけなので定着していないと思われる。テスト後の間違い直しや練習をまめにやらない傾向がある。「書く・読む」はじっくり考えないところがある。	漢字の練習をしっかりとやる。漢字の小テストはこれまで通りやり、確認をする。間違い直しをしっかりとやる。「書く能力」は短い作文を機会あるごとに書かせたり、感想をスピーチさせるなど興味を持たせ、基礎を定着させる工夫が必要である。
3年	すべてにおいて目標値は上回っているが、区の平均は下回っている。特に「書く能力」が弱い。「漢字の読む・書く」はまあまあである。「話す・聞く」ことは良くできている。	意欲的に頑張っているが、「書く能力」が弱い。授業中も感想や意見など発表したりしているが、苦手意識をなくすことが必要である。語彙を豊かにすること、論理的に自分の考えを組み立てていく力、人に伝わるように表現する力を育てていく。	200字程度の課題作文を繰り返し練習する。時間を決めて、その中で完成させる練習をする。機会あるごとに、短い作文を作って発表する。恥ずかしがらずに自信を持って、自分の意見を発表できるようにする。

(2) 社会科

<p>社会科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・身に付けた知識を活用することで、言語活動の充実を図り、特に社会的事象に関する思考判断や資料活用の技能表現において、学習能力の向上を目指す。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の定着に個人差がある。 ・社会的思考力に個人差がある。 ・言語活動（特に小集団での話し合い、意見集約、発表など）に一定の成果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の定着 ・社会的思考力の向上 ・言語活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業ごとに基礎定着を図るプリント学習を行う。 ・「考える、書く、発表する」場面を盛り込んだ授業構成を考え、実行する。 ・今後も同様の活動を行い、その内容や結果を振り返り、分析を行う。次々回への改善案を見出す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の定着に個人差がある。 ・社会的思考力に個人差がある。 ・資料等から読み取る力に欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の定着 ・社会的思考力の向上 ・資料読解力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業ごとに基礎定着を図るプリント学習を行う。 ・「考える、書く、発表する」場面を盛り込んだ授業構成を考え、実行する。 ・読解力向上が図れる授業構成を考え、実行する。プリントを用いて「書く」作業を充実させたい。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の定着に個人差がある。 ・社会的思考力に個人差がある。 ・高校入試に対応する力が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的知識の定着 ・社会的思考力の向上 ・入試的応用問題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業ごとに基礎定着を図るプリント学習を行う。 ・「考える、書く、発表する」場面を盛り込んだ授業構成を考え、実行する。 ・入試に対応するため、単元や分野ごとに関連した応用問題に挑戦させる。

(3) 数学科

<p>数学科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導を活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図っていく。 ・教材を工夫し、個に応じた指導を行い、確かな学力を身につけさせるとともに、発展的な力も伸ばしていく。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>図形の分野においては、教科の目標値・区の平均より上回っている。</p> <p>数と式・量と測定は教科の目標値を上回っているものの区の平均よりは下である。</p> <p>数量関係が弱いことがうかがえる。</p>	<p>基礎的な力については生徒も多いが、分数・小数の計算は間違いも多くみられる。</p> <p>数量関係が弱く、また、活用する力をさらにつけていく必要がある。</p>	<p>毎時間、小テストを行い、学習内容の定着を図る。</p> <p>基礎的な部分では演習を重ねるとともに、分数・小数については丁寧に扱い、確実な定着につなげる。</p> <p>また、関数や活用する問題なども、プリントなどでしっかりと理解させる。</p>
2年	<p>関数の分野では、教科の目標値・区の平均より上回っている。</p> <p>しかし、数と式・図形・資料の活用の領域では、目標値を下回っている。特に、資料の活用ができていないことがうかがわれる。</p>	<p>数学への苦手意識が強い生徒が多く、基礎的な部分の定着が弱い。</p> <p>図形については、あいまいなままになっている生徒も多く、しっかりと理解していない。</p>	<p>基礎的な部分では、一層の演習が必要である。定期的に課題を出すこと積ませて、確実な定着を図る。</p> <p>また、プリントなどを工夫し、個に応じた指導を行うとともに、図形については、しっかりと理解させたい。</p> <p>資料の活用の復習を行う。</p>
3年	<p>図形の分野においては、教科の目標値・区の平均より上回っている。</p> <p>しかし、数と式・関数・の領域では、目標値を下回っている。</p> <p>特に、関数ができていないことがうかがわれる。</p>	<p>計算については、多くの生徒が定着しているが、連立方程式の文章の読み取り部分が弱い。</p> <p>また、1次関数については、グラフからの読み取りができていない。</p>	<p>さらに、計算力の向上を図るとともに、活用する力を、丁寧な説明と演習で、しっかりと培う。</p> <p>また、関数分野では昨年度の復習を行い、グラフや読み取りの確実な習得を図るとともに、今年度の内容にも十分な時間を使い、理解させる。</p>

(4) 理科

<p>理科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験に対する関心が高い生徒が多いという傾向があることを生かして、実験レポート作成によって、結果から考えられることを自身でまとめる過程を重視する。この指導を通して「考える理科」の一層の推進とともに、学習内容と定着と深化を図る。 ・導入に復習・小テストを積み重ね、日々の授業の中で基礎的・基本的な学力の定着を図る。さらに教材を工夫することで確かな学力を身につけさせるとともに、少人数指導の特性を生かし、個別指導や対話型授業を実践して、個人の差に柔軟に対応する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>観点において、「観察・実験の技能」、「知識・理解」については、全国平均・区平均を上回るものの、「思考・表現」については、区平均を下回っている。「表現力」は区の平均を上回っているが、「思考・判断力」は区平均を下回っている。基礎的な知識を活用する思考の力も付けていきたい。</p>	<p>「表現力」「思考力」に関しては生徒間の能力の差が大きい。</p> <p>実験に対する意欲が高い生徒が多いので、実験・作業を通じて、思考力・応用力・表現力を付ける必要がある。</p>	<p>基礎的な知識の定着においては、引き続き学習の目的を明確にし確実にする。科学的事象の思考・言語表現の時間を設け、言語能力の向上を図る。</p> <p>ICT機器の効果的な活用を図り、視覚的に理解しやすい教材の工夫を行う。</p> <p>少人数授業を活かして、生徒ひとり一人が実験に取り組める環境を作り、実験を通じての「学力向上を目指す」。</p>
2年	<p>区学力調査より、化学・物理分野についての正答率は、区平均・区目標値を上回っており、実験等に関わる出題が得意。生物・地学分野については、区平均を上回っているものの、区目標値に達することができなかった。名称・用語等の記述ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の用語・名称など、時間の経過とともに忘れることが多い。 ・理科の学習内容と、身の周りの身近な例とをしっかりと関連づけて考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験等に関しては、引き続きレポートの作成（実験結果からの考察）の活動を行い、言語活動の伴った科学的思考の育成を伸ばしていく。 ・理科の用語・名称については、しっかりと用語・名称の意味を理解し、説明ができるような指導や、自分でまとめられるノート作りの指導も行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・記述する解答が弱い。 ・気象分野の「前線」の構造がわかっていない。 ・「組織液」「酵素」などの用語を忘れている。 ・脊椎動物と無脊椎動物の特徴比較ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書かせる訓練が不十分 ・前年度の学習が完全に終わっていない ・時間の経過とともに忘れることが多い。 ・分類の特徴を理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験→まとめ→確認の実験のパターンで定着を図る。 ・書かせる訓練を意図的・計画的におこなう。 ・定期的に用語の復習をする。 ・分類の表を自分でまとめるなど、ノートの作り方も指導する。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- ・音楽の多様な表現を導くためには、音楽を正しく捉えるために楽譜を正しく読み取ること、自分の表現能力を発揮するために演奏技法の基本を身につけることが必要となる。歌唱に対して積極的な生徒が多いことを活かし、表現活動の充実に向けて「読譜力の育成」と「表現技能の定着」を目指したい。
- ・音楽的表現の場(学校行事など)で、生徒達が伸び伸びと表現活動が行えるように積極的に声をかけ、生徒達に達成感を味合わせるよう促したい。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	歌唱に対してとても積極的であり、すぐに取り組める良い習慣が定着している。まだ音楽的知識が十分ではないが、表現の工夫に対してとても意欲的なので、それに役立つ知識理解面でも具体的なアドバイスをすぐに受入れることができる。	表現活動に意欲的な反面、まだ楽譜を深く読み込んでいない場合も多い。ただ、授業規律ができているため、ミスはすぐに改善できる柔軟性がある。 そのため、ひとつひとつの表現活動を充実させるように楽譜をじっくり読み、推論でなく提示された課題を読み解くような指導を心がけなければならない。	読譜力を高めることで楽曲を正しく捉えた表現活動を目指したい。「歌唱の正しい姿勢」「腹式呼吸」を定着させることで、より深く多様な表現活動が行える土壌を育みたい。 表現活動の中に積極的に創作的課題を盛り込み、学習をより深めたい。
2年	授業に対する姿勢は昨年度よりも定着し、授業規律も少しずつ整ってきた。集団での表現活動がのびのびとできるようになってきたので、共に創り上げる喜びを味わいつつ、個々の能力も伸ばさせてゆきたい。	音楽的知識がやや定着しつつあるがまだ不十分なため、写譜や記譜にじっくり取り組むことで、楽典の基礎・基本をしっかり積み上げていく必要がある。 授業規律を守りつつ、音楽的な積み重ねをしていくためには個々の意識を高めていかななくてはならない。	音楽の様々な表現方法を示すために、板書や楽譜を工夫してよりわかりやすい授業を作ること、1時間ごとの目標を明確にすることで個々の達成感を高めていくこと、音楽のとらえ方を知るために自己評価カードなどを通して生徒ひとりひとりと向き合えるようにしていくことを実践する。
3年	人前で表現活動をするにあまり積極的ではないので、歌唱の際にも取り組みが浅くなりやすい。ただ、生徒の中には音楽に対する深い感性や、こつこつと積み上げるように表現を磨いていく特性もある。	歌唱表現に必要な姿勢、腹式呼吸が定着していないため、表現活動に専念できない場合が多い。音楽に対する関心は深いですが、それを表現する方法が少ない。楽譜を読み取る習慣が、あまりない。	「歌唱の正しい姿勢」「腹式呼吸」を身につけることで、表現活動を円滑に行えるようにしたい。音楽記号や音符・休符の読み方を復習することで、楽譜から必要な表現方法を読み取り、自分たちの能力を伸び伸びと発揮させたい。

(6) 美術科

美術科の重点

- ・美術の楽しさを体験するとともに作品を創り、表現することの喜びや充実感を養う。
- ・他者の作品や美術作品を鑑賞することに興味を持ち、作者の心情や時代背景を考え、美しさを感じる心を育てる。
- ・日本の伝統的な美術・工芸作品を鑑賞し、それらに対する知識と理解を深める機会を得る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	作品制作への意欲・関心は比較的高く、積極的に取り組んでいるが、理解力や技能に差がある。集中力が持続しない。	全体的な意欲は高いものの理解力に差があるため知識や技能に差が生じ、制作の進捗にも影響を及ぼしている。またそれが集中力の持続ができない要因ともなっている。	過去の生徒の作品など参考作品を提示することで視覚的に理解して意欲の維持を促すとともに、個別指導の充実を図ることで、個々の能力を養う。
2年	良い発想をする生徒が多いが、それを作品に結び付ける具体的な手立てで悩む生徒が多い。	発想が表現に結び付かない。発想を具体的な形に表現することに対して苦手意識を持つ生徒が多い。	ほめる授業を実践することで苦手意識を払拭させる。様々な材料を用いた課題を設定すること、またモダンテクニックなどの多彩な技法の紹介とそれを使った小作品の制作をする中で、具体的な手立てについて考えさせていく。
3年	意欲を持って取り組む生徒が多いが、課題に対し自由に発想することやそれをもとに具体的に構想を立てることを苦手とする生徒が多い。	自分が目指す作品のイメージを具体的に想像出来ず迷ってしまう生徒がいる。一つのプランに固執し、発想の幅を広げられない生徒も多い。	過去の生徒の作品など参考作品をなるべく多く見せることで多様な発想を促したい。さらにエスキースを重ね、イメージを絞り込むなどし、また制作のための計画表を作るなどして構想の力をつけていきたい。

(7) 保健体育科

<p>保健体育科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の喜びや楽しさを味わいながら、一生懸命に取り組むことで自己の運動能力や体力の向上を図る。 ・健康・安全への知識を身につけさせ、仲間と互いに協力したり自己の責任を果たすことの大切さを理解させる。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>とても活発で保健体育の授業に興味関心が高く、素直に向上していこうという姿勢がある。技能の面においては、基礎基本を学ばせ、運動技能の充実を図りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的学習習慣を定着する。 ・基礎基本の持久力や筋力を日々の授業で培う。 ・各種目の特性を学ばせ、基本的技術の習得をさせる。 ・自ら運動に親しむ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の体操・ランニング・補強運動を継続して行い、体力の向上を目指す。 ・各種目の特性を理解させるために、学習カードや副教材を使用し、きめ細やかにルールや技能、また用語などを理解させ、内容の基礎基本の定着を図る。
2年	<p>昨年度の継続から体力が向上してきているが、さらに運動に親しみ、運動技能の習得をさせて向上を目指していく必要性がある。基本的な集団行動から各種目の特性を踏まえ、より運動に親しむ姿勢を育てた、基礎から応用できる力を育てたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的学習習慣の定着をする。 ・基礎基本の持久力や筋力を日々の授業の中で培う。 ・基礎から応用へと発展させていけるように取り組ませる。 ・各種目の特性を教え、基本的技術を取得させる。 ・自ら運動に親しむ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の体操、ランニング、補強運動などを継続することにより、体力向上を目指す。 ・各種目の特性を学ばせることで、関心意欲が持てる授業の工夫をしていく。 ・既習の内容をヒントに、自分たちで工夫して練習に取り組む場を設定する。 ・保健等の授業を通じて、生涯スポーツの大切さを学ばせ、運動に親しむ態度を育てる。
3年	<p>体育的行事を通じて思考判断力が向上してきている。体力面では持久力・筋持久力の面が低い。基礎体力が定着してきた部分を伸ばし、さらに発育発達に合わせながら、体力の向上を図り、発展的な技術の習得を目指したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の体力作りを継続して更に体力を高める。 ・各種目に応じて、自分達で考えて練習などを工夫して行える力を更に育てる。 ・技能に関しては、応用、発展へと繋がる授業の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操、ランニング、補強運動を継続し、昨年度より回数を増やし、向上をめざす。 ・グループ練習など自ら練習を考慮して行える時間を増やし、思考判断の能力を伸ばしていく。 ・学習カードなどを活用し、自分の技能の向上を図れるようにする。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点		授業改善プラン		
現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン		
分析内容		指導上の課題	改善案	
1年	(技) ものづくりに対する意欲・関心があり、積極的に取り組んでいるが、理解力や技能に差がある。	(技) 集中力や理解力に差があるため知識や技能に差が生じ、実習の進捗にも影響を及ぼしている。	<p>⇒</p> <p>⇒</p>	(技)授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高める。役割を決めたり、協力し合ったりすることで基礎的な知識、技能の習得と進捗の安定を図る。
	(家)ものづくりに対する意欲は高いが、学力・技術には大きな差がある。	(家)裁縫に関する基礎的な技術に差がある。用具の正しい使い方も理解に差がある。		(家)グループワークやペア学習を取り入れ、全員が基礎的な技術を習得できるようにする。学習環境を整え、安全に実習が行えるようにする。
2年	(技) ものづくりに対する意欲・関心は高く、実習には積極的に協力し合っており、理解力や技能に差がある。	(技)生徒によって意欲や理解力に差がある。そのため、生徒によって技能に差が生じている。	<p>⇒</p> <p>⇒</p>	(技) 授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高める。実習では見本を提示し、目で見て理解したり、やってみようという意欲を高めたりして、基礎的な知識、技能の習得を図る。
	(家)学力、意欲・関心ともに大きな差はあるが、調理実習など実践的なことへは積極的に取り組む生徒が多い。	(家)実習への意欲は高いが、用具の取り扱いや知識に関しては個人差が大きい。		(家)調理実習の内容と関連した知識学習をあわせたワークシートを用いて調理実習、授業を行うことで技能・知識理解の向上を図る。
3年	(技) ものづくりに対する意欲・関心は高く、実習には積極的に協力し合っており、理解力や技能に差がある。	(技)生徒によって意欲や理解力に差がある。そのため、生徒によって技能に差が生じている。	<p>⇒</p> <p>⇒</p>	(技) 授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高める。実習では見本を提示し、目で見て理解したり、やってみようという意欲を高めたりして、基礎的な知識、技能の習得を図る。
	(家)被服製作に関する基礎的な知識は比較的高いが、技能や意欲には大きな差がある。	(家)意欲、技能の差が大きいことで製作のスピードに差ができています。		(家)グループ学習や個人的なサポートも取り入れ、進捗の差をなくすようにする。全体的な製作計画をより明確にする。

技術・家庭科の重点

- ・実践的、体験的な学習活動をとおして、工具（用具、調理器具を含む）の正しい使い方を身につけ、生活に役立たせることができる。また、緻密な作業にも積極的に取り組むことで技能の向上を図る。
- ・技術と社会や環境とのかかわりについて学び、ものを大切にする心を育てる。
- ・生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識・技術を習得し、生活をよりよくしようという心を育てる。

現状分析 (成果と課題)

分析内容

1年

(技) ものづくりに対する意欲・関心があり、積極的に取り組んでいるが、理解力や技能に差がある。

(家)ものづくりに対する意欲は高いが、学力・技術には大きな差がある。

2年

(技) ものづくりに対する意欲・関心は高く、実習には積極的に協力し合っており、理解力や技能に差がある。

(家)学力、意欲・関心ともに大きな差はあるが、調理実習など実践的なことへは積極的に取り組む生徒が多い。

3年

(技) ものづくりに対する意欲・関心は高く、実習には積極的に協力し合っており、理解力や技能に差がある。

(家)被服製作に関する基礎的な知識は比較的高いが、技能や意欲には大きな差がある。

授業改善プラン

指導上の課題

(技) 集中力や理解力に差があるため知識や技能に差が生じ、実習の進捗にも影響を及ぼしている。

(家)裁縫に関する基礎的な技術に差がある。用具の正しい使い方も理解に差がある。

(技)生徒によって意欲や理解力に差がある。そのため、生徒によって技能に差が生じている。

(家)実習への意欲は高いが、用具の取り扱いや知識に関しては個人差が大きい。

(技)生徒によって意欲や理解力に差がある。そのため、生徒によって技能に差が生じている。

(家)意欲、技能の差が大きいことで製作のスピードに差ができています。

改善案

(技)授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高める。役割を決めたり、協力し合ったりすることで基礎的な知識、技能の習得と進捗の安定を図る。

(家)グループワークやペア学習を取り入れ、全員が基礎的な技術を習得できるようにする。学習環境を整え、安全に実習が行えるようにする。

(技) 授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高める。実習では見本を提示し、目で見て理解したり、やってみようという意欲を高めたりして、基礎的な知識、技能の習得を図る。

(家)調理実習の内容と関連した知識学習をあわせたワークシートを用いて調理実習、授業を行うことで技能・知識理解の向上を図る。

(技) 授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高める。実習では見本を提示し、目で見て理解したり、やってみようという意欲を高めたりして、基礎的な知識、技能の習得を図る。

(家)グループ学習や個人的なサポートも取り入れ、進捗の差をなくすようにする。全体的な製作計画をより明確にする。

(9) 英語科

<p>英語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語に訳すことなく、英語を英語として直接理解できる力を養う。 ・自ら読み、話し、書くことができるよう、活動や発表の機会を多く設定する。 ・少人数授業の特性を生かし、対話型授業や個別指導を充実させる。 ・小テスト等を活用し、既習事項を繰り返して復習させ、知識の定着を図る。
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>落ち着いた態度で授業に臨むことができおり、英語でのコミュニケーションに積極的な生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の個人差が大きく、既習単元の内容が身につけていない生徒と、塾等で学習内容を先取りしている生徒が混在している。 ・日本語訳にとらわれがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導を生かし、個々の進度に合わせた課題を提示し、きめ細やかな机間指導を行う。 ・小学校の英語活動で培ったコミュニケーションへの積極的な姿勢を保持するため、口頭発表や、活動の機会を多く設けたい。
2年	<p>観点別に見ると、全観点で区平均を下回り、特に表現の観点でその幅が大きい。内容別に見ると、単語の綴り、適切な語順がわからないため、作文ができない。</p> <p>また、問題の種別で見ると、活用問題が苦手な生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣が身につけていないため、繰り返した学習が不十分である。 ・そのため、基本的な単語の綴りや語順が理解できず、英作文もできない。 ・英語への興味や学習意欲が不十分な生徒が、授業に集中できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストやワーク、単元テストを通じて、繰り返した学習を促す。 ・小単元毎に英作文の課題を課し、練習させる。 ・自分の身の回りの事柄について表現させる機会を設ける、ICT機器を活用する、などの工夫を図り、学習意欲を喚起する。
3年	<p>理解していても、積極的に発言しようとする生徒の数が少ない。</p> <p>3文以上の英作文の項目で正答率が高い点が評価できる。リスニングの対話文の応答と単語の並べ替えによる英作文の正答率が低い点が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題にあまり慣れていないため、少し長い文のリスニング問題でつまずいてしまう。 ・英語の基本的な構造はやや理解しているが、既習の基本文を使った表現がまだ定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い文のリスニング問題から取り組ませ、徐々に長い文のリスニング問題でも内容を理解する力をつけさせる。 ・既習の基本文をディクテーション等で復習し、基本文をもとに語順を考えて英文を組み立てるように工夫していく。 ・少人数授業を活用し、レベルにあわせた教材を準備する。